# 山びこ

日本キリスト教保育所同盟（題字　前理事長・木村 量好）

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局　つくし保育園内　〒601－1336　京都市伏見区醍醐柏森町25
発行責任者　理事長　小南　　進


## 「ありがとうございました」

事務局長　山　下　茂　雄

2025年度の総会がKKP京都においてもたれ、小南進理事長がご退任され、新井純先生が新しい理事長に選任されました。私にとっては感慨深いことでした。

京都地区が、事務局を10年間（1989年４月～1999年３月）事務局を担ってくださった兵庫地区から引き継ぎ、事務局を担当したのは1999年４月でした。木村量好先生が理事長、新井克己先生が事務局長、小南進先生が会計を担われてのスタートでした。

今事務局を担当している「若手」たちが木村量好先生の呼びかけを受けて、京都駅近くの焼肉屋に集められたのは、その年の２月ごろだったと思います。それから15年の年月が流れました。私たち「若手」は、この15年間ずっと三人の先生方の仕事ぶりを身近なところで見てきました。その間新井克己先生が引退され、小南進先生が事務局長となり、また木村量好先生が引退されてからは、小南進先生が第５代目の理事長としてキ保同の先頭に立ってくださいました。

今印象深く思い起こすことは、これら三人の先生方が本当に「良い仲間」だったということです。私たち「若手」には、「いつも三人は一緒だった」というイメージがあります。そして「前向きに楽しく」仕事をされていた姿です。第一回の新任保育士研修会が始まったのは、1999年10月でした。そして中堅保育士研修会が始まったのは、2000年１月でした。この二つの研修会は、今もキリスト教保育を学ぶ良い機会となっています。また「第三者評価委員会」スタートしたのは、2003年４月です。小南進先生は、「第三者評価委員会創設について」の中で、「法律で定められたことであり、いずれ行うのではあれば、強制された中で行うのではなく、主体的に私たちの意志で取り組みたい」と書いておられます。

「良い仲間」と共に楽しく、主体的に、積極的に仕事に取り組んでいく。私たち「若手」は、そんな三人の先生方の姿を見ながらこの15年間過ごしてきました。特に小南進先生の何事においても「前向きな」な姿は、私たち「若手」をずっと励ましてきました。

「人と人とのつながり」を大事にしながら、共に「愉快に」「前向き」に歩む。この姿勢を継承していきたいと願っています。小南進先生には、引き続き顧問としてお支えいただきますが、これまでのお働きに感謝いたします。ありがとうございました。

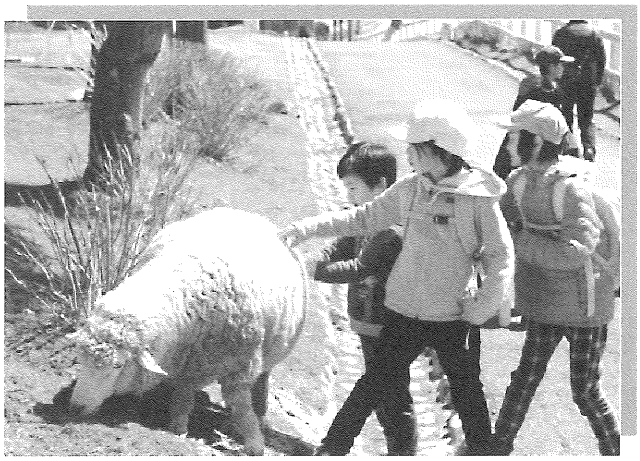
# 「春の神戸に遊びに行こう！」

会津放射能情報センター　片　岡　輝　美

2011年３月11日に起きた東京電力福島第一原子力発電所大事故以降、福島県や近隣県に住む子ども達は「保養」に出かけるようになりました。それは、一定期間放射能の影響がない地域に出かけ、安全な食事を摂り戸外で活動をし、しっかりと休養することで、免疫力をアップさせ体内に入り込んだ放射性物質を排出、またはそれに負けない身体を作ることができると言われているからです。ウクライナやベラルーシでは「チェルノブイリ法」によって、子どもたちの保養参加は健康な身体をつくる当然の権利として認められ、年に２回３週間の保養実施は国家事業となっています。事実、保養キャンプに到着した時、ホールボディカウンターで測定された子どもたちの体内のセシウムは、３週間の同キャンプ終了時に再び測定すると20～40％ダウンすることが分かっています。つまり、保養は効果があるとされているのです。しかし、近年、十分な国家予算が取れずにその回数が縮小されつつあるとも聞いています。

本来、福島原発事故発生と拡大の責任がある日本政府や文科省が子どもの健康を守るために、このような施策を行うべきなのですが、117名の小児甲状腺ガンが発見されても「福島原発の影響とは考えにくい」と断言し、原発事故の過小評価や輸出、再稼働を目指しているくらいですから、実現はほぼ不可能です。そこで、2011年夏より全国各地や海外の個人や団体などが自主的に企画し、春・夏・冬休みの時に福島県や近隣県の子どもたちを招いてくださっています。

この春休み、会津放射能情報センターでは「春の神戸へ遊びに行こう！」を企画、６名の小学生が参加しました。２月末、私の「もうすぐ春休みだけど、どこかにお出かけしたいね」との一言に、子どもたちが「行きたい！」。「それでは、神戸の教会にお願いしよう」と、過去３年間夏の保養プログラムで私たちを招いてくださっている神戸市内12教会が作る「ふくしま・こうべこどもキャンプ」実行委員会に連絡。「とても急なのですが、来月遊びに行ってもいいですか？」「もちろんです！」と、あっという間に予定がたちました、まるで親戚のお家に遊びに行くみたいに…。



大雪の会津若松を出発して着いた神戸は既に春。笑顔の牧師さんたちに迎えられ、楽しい旅行が始まりました。東神戸教会の一室と台所をお借りした共同生活では、みんなで食事作りや後片付け。出かけた先は須磨海浜水族園や王子動物園、六甲山牧場に有馬温泉。どこに行っても楽しくて嬉しくて、そして美味しくて…。エネルギー全開で遊んだ5日間でした。唯一、退屈したのは神戸港の夕方90分のクルージング。大きな客船に乗り込むまでは大興奮の子どもたち、でも、一度港を出れば、回りは海と空。「ヒマ…」とのつぶやきを聞きつつ、私たち引率者2名は明石海峡大橋に沈む夕日を満喫したのです。

東日本大震災以降、私にとって神戸は特別な街になりました。あの日、私は神戸に住む次男・三男に会うために、地震直前の電車に飛び乗りました。しかし、猪苗代駅付近で止まり、引き返して帰宅。その後数日は避難者を迎え送りだすために、若松栄町教会に留まることを決意しながらも、結局、原発事故の恐怖から、四男と姪が1日前に到着していた三重県鈴鹿市の義弟宅へ、15日甥と一緒に避難。その後、姪たちの母親である私の妹や東京も危険だと判断した長男も集まってきました。義弟家族への迷惑を減らすため、そして、次男や三男、親しい友人たちに会いたく、20日日曜日、家族全員を連れて神戸へ。まるで春の家族旅行のようでした。しかし、東神戸教会牧師・川上盾（かわかみじゅん）さん（当時）が、「謁也（えつや）（夫）が、『きっと輝美は自分が避難したことを責めているだろうから、オレの代わりにハグしてやってくれ』って、言っていたよ。」と、抱きしめてくれた途端、「みんな、置いて来ちゃった…」と、私は泣き崩れました。その日の礼拝はゴスペル礼拝、午後には水道筋商店街で震災救援チャリティーライブ。祈りや歌声に包まれながらも、福島にいる人々を思い、自分が神戸にいることの後ろめたさを拭いきれませんでした。

正直な気持ちを言えば、震災以降、神戸を訪れる度に少々緊張します。特に、この春の旅行はそうでした。まさに避難していた季節、あの時を思い出していたからです。でも、やはり、神戸に行って良かった。あの時の辛さは変わらないし、なかったことには絶対できない。でも、なぜ原発事故が起きたのか、その後、自分は何をしてきたのか、そして、これからどうしたいのかと思いを巡らす時となりました。その時を与えてくれたのは、どこに行っても笑顔で走り出す子どもたちとその様子を温かい眼差しで見守る神戸の友人たち。その笑顔と姿に励まされ、「さぁ、これからも会津でがんばろうかな…」と、春の空気を一杯吸い込んで、会津若松へ帰ってきたのです。

# 「い　の　ち」

大阪聖和保育園　保育士　立　花　麻理子

## 「もっと、受け入れてあげたら？」

（背　景）

私が担当しているホーム（クラス）は、１・２才児混合で、障がい児も含め21人のこどもたちがいる。担当保育士は私を入れて４人とフォローの先生１名が配置されている。私はホームリーダーも担当している。Ａちゃんは、２才児の女の子。乳児院に入所していたが、昨年の６月から里親さん宅で暮らしている。明るく、非常に活発で、途中入所ながらも他児とのかかわりも多い。大人（里親・保育士）に対しての要求も多く、思い通りにならないと大声を出したり物を投げたりする。

（エピソード）

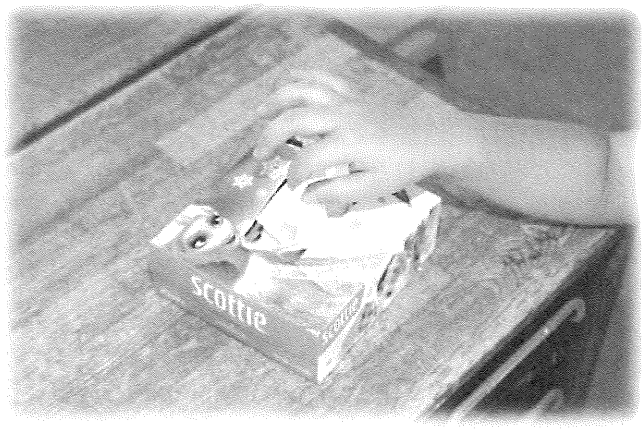
この日は、Ｂ保育士に抱っこを求め、抱っこされるとＢ保育士の着ているシャツを伸ばし始めた。Ｂ保育士がやめてほしいと伝えるとさらに伸ばすＡちゃん。話しをしながら抱っこから降ろされると、物を投げたり部屋中を走り回る。Ｂ保育士が「何がいやだったの？」と聞いても、聞いた言葉をかき消すように叫ぶＡちゃん。これだけ繰り返されると、保育士も意地をはってしまうのはよくわかると、私はＢ保育士に共感した。場面が変わってもこのようなことが何度かあり、最後は反り返って泣きながら何かを訴えていた。私には“要求したものと返答が違う”と訴えているように見えた。

その日の午睡中のこと。フォローで入っていたＣ保育士から「何か、Ａちゃんて担任に受け入れられていない気がするわ」と言われた。Ａちゃんと関わることが多く、結構がんばっているつもりだったので、正直に「なんで？」と尋ねると、「何となくそう思う」との返答。その場面だけを切り取ると“「Ａちゃんと担任がやり合っている」とも写るのかな？”と思い、普段のＡちゃんの様子と私たちもそれに応えようとしていること、でも要求する頻度が他児よりも多く、すべてを受け入れる事は難しいと感じていることも正直に話しした。Ｃ保育士は、「ふ～ん、そうやったんや。でも、もっと受け入れてあげたらいいんちがう？Ａちゃんの家庭環境のこともあるし」と言った。

Ｃ保育士の「もっと、受け入れてあげたら」の言葉が頭から離れない。正直なところ、Ａちゃんと関わる時間は長い。でも、まだＡちゃんにとっては足りていないのかなと振り返ってみたりもした。要求を受け入れるとエスカレートし、「ここまで」と伝えると次の要求をする。突然座り込んで砂をつかみ「砂がついた～！」と泣いた時には“それはついたのじゃなくて「つけたの！」”と思ったし、洋服のボタンを引きちぎって「取れた！」と言いに来た時には“それは取れたんじゃないの「取ったの！」”と思った。“Ａちゃんが訴えている行動の意味”と、私の感じる気持ちにズレが生じてしまう事もしばしばあった。そこは感じながらも、ここまでしなければやっていけないＡちゃんを、やっぱり受け止めたいと思い関わっていた。

それからしばらくしたある日。普段めったに休むことがないＡちゃんが用事で保育園を休んだ。何となく気持ちが楽になっていた。“今日は会えずに残念だな”ではなく、少し楽になっていたのだ。Ｃ保育士に「もっと受け入れてあげたら？」と言われたことの意味がわかった気がした。要求に応える事が受け止めて

いることだと思っていたが、そうではないのではと感じた。また、Ａちゃんとの対応に本当はしんどくなっていた正直な気持ちにも気づいた。そして、どのように関われば良いのかわからなくなった。




それからしばらくしての出来事。私は、映画の主人公である“アナ雪”が描かれている、空のティッシュボックスを家から持ってきた。こどもたちとの会話の中で“アナ雪”が好きだということがわかっていたからだ。空箱へティッシュを入れ直し、みんなの手が届く所へ設置した。するとすぐにＡちゃんが「まり子先生、なんで、これ持ってきたの？」私に尋ねた。「Ａちゃんが喜んでくれると思って持ってきたよ。Ａちゃん、“アナ雪”好きだもんね」と答えると、Ａちゃんは嬉しそうに笑った。

翌日から２日間の休みを取り、再び出勤した日、Ａちゃんがお友達にティッシュボックスを指さして、オーバーリアクションで「これ、まり子先生が、Ａちゃんのために家から持ってきたんやで！！」と嬉しそうに話しているのを目にした。私は、ティッシュボックスを持ってきたことも忘れていたので、とてもびっくりした。Ｂ保育士からも「まり子先生が休みのあいだ中、ずっとみんなにこの話していますよ。」と教えてもらった。

私は何とも言えない気持ちになった。関わる時間は問題ではなく、Ａちゃん自身が“私のために”と受け取ってくれたことで、こんなにも満たされて喜んでいる。きっかけは「廃材…」しかもＡちゃんだけのためではなく、みんなのために持ってきたのだが、私の「Ａちゃんが喜んでくれると思って」の一言がＡちゃんにとってどれだけ嬉しい言葉であったのか私の想像を超える。「“私”を見て欲しい」「“私”を愛して欲しい」わかっていたつもりだったが、わかっていなかった。胸が熱くなると共に、一層Ａちゃんが愛しくなった。

（考　察）

Ａちゃんと日頃から関わる時間が多いので、「私たち保育士は、よくやっている」と、勘違いのまま思い込んでいたためＡちゃんが見えなくなっていた。「子どもを受け入れる」ということは、「子どもの要求してくる行動に応じる」ということではなく、保育士（大人）側からの“あなた”そのものの存在に対して、無条件に発信する肯定のメッセージなのだとわかった。これからもうまく発信できるのか不安だが、こどもたち一人一人への思いを大切にして、関わっていきたいと思った。

聖書：これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。

（マタイによる福音書　１８章１４節）

# 事務局だより

2015年度総会が5月11日KKR京都においてもたれました。2014年度事業諸報告及び会計報告、活動方針、2015年事業諸計画及び会計予算案、国際交流事業、第57回夏季保育大学などが承認されました。小南　進理事長がご退任され、新井　純さん（十日町幼児園）が理事長に選任されました。

☆　**下記の活動方針を承認しました。**

『キリスト教保育―いのち・人権・平和―』

「多様な価値観を認め合いながら、子どもの育ちを守る働き、すなわち、21世紀を生きる子どものいのちの尊厳への不安と危機感が深まる今日、子どもの視点に立って、キリスト教保育の視点を明確にし、国際協力・災害支援を視野に入れつつ会員相互の研修と連帯を深める。」

☆　**「日本キリスト教保育所同盟ミッションステートメント」が承認されました。**

☆　**「理事、監事任期満了による改選の件」が上程され、協議の結果、全員一致で次の方々を選出しました。**

［本部理事］

理事長　新井　純（十日町幼児園）
副理事長　大野　光信（シオン保育園）
副理事長　多田　玲子（グレース保育園）
本部理事　大橋　愛子（さかえ保育園）
　　川口　義道（カナン十河保育園）
教　団　押川　幸男（社会委員会）
教団担当理事　石井　錦一（第一平和保育園）
常務理事　山下　茂雄
　　（かがわ子ども・子育て支援センター）

［事務局］

事務局長　山下　茂雄
事務局次長　川上　信（八日市めぐみ保育園）
会　計　堀井　忠（同胞保育園）
国際交流　堀井　忠（同胞保育園）
山びこ　木村　耕（ぶどうの木保育園）
ホームページ　橘　秀紀（聖光学園保育部）

［監　事］

石森　弥生（あびこひかり保育園）
平良　嘉男（一麦保育園）

［地区理事］

奥羽地区　山下　光（水沢保育園）
関東地区　藤田　基道（みどり保育園）
東京地区　早坂　泰子（山手保育園）
神奈川地区　板橋　淑子（YMCAかわさき保育園）
東海地区　海野美代子（一番町保育園）
中部地区　山内ミハル（梅光保育園）
京都地区　中江　潤（桂ぶどうの木こども園）
大阪地区　嶋田　良介（天使保育園）
兵庫地区　斉藤　真人（ゆりか保育園）
中国地区　眞田　右文（愛光園保育所）
四国地区　西山　善樹（育愛館）
九州地区　福島　義信（合志中部保育園）
沖縄地区　友寄　隆静（光の子保育園）

☆　**第58回（2016年度）夏季保育大学は、今後の地区形成も含めて東北地区が担当する。**

☆　**新加入園（全加盟園　153ケ園）**

YMCA東とつか保育園、YMCAつるみ保育園、YMCAとつか保育園
金沢八景YMCA保育園、YMCAたかつ保育園、YMCAオベリン保育園
YMCA山手台保育園アルク、YMCA東かながわ保育園（以上8ケ園「神奈川地区」）
松陰おかもと保育園、神戸学園都市YMCAこども園（以上2ケ園「兵庫地区」）
ベテル保育園（東京地区）

☆　**予　告（ご予定ください。）**

| | | |
|---|---|---|
| 第57回夏季保育大学 | 2015年8月19日～21日 | 於．リーガロイヤルホテル広島 |
| 園長研修会 | 2015年10月26日～27日 | |
| 中堅保育士研修会 | 2015年11月11日～13日 | |
| スキルアップ研修会 | 2016年1月19日～20日 | 於．コミュニティ嵯峨野 |
| 理　事　会 | 2016年2月15日～16日 | |

☆山びこ編集部　ぶどうの木保育園内　〒614-8362　京都府八幡市男山美桜6－5☆
TEL（075－982－9013）・FAX（075－874－2500）　＜budounokihoikuen@diamond.broba.cc＞